

普及活動情勢報告（平成 30 年 12 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

計画出荷で選ばれる産地へ！トルコギキョウ目慣らし会・現地検討会



JA土佐香美トルコギキョウ部会は、12月6日に目慣らし会、13日に現地検討会を開催し、延べ28名が参加しました。

農業改良普及課からは、市場や他産地の情勢、計画出荷のための温度管理や環境制御技術について情報提供しました。生産者からは「市場から求められる品種を検討していかななくては」「温度管理を改善し、計画出荷していきたい」等の声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して産地の維持・拡大や、生産性の向上を目指して支援していきます。

露地ショウガの講習会を開催



12月14日、JA土佐香美生姜部会が一寿司会館(香我美町)で講習会を開催し、生産者45名が出席しました。

環境農業推進課(病害虫担当専門技術員)が低濃度エタノールによる還元土壌消毒について、また農業改良普及課がショウガの養分吸収特性や品質安定技術等について説明しました。生産者からは「施肥方法を見直したい。」「地力の維持・向上の大切さを改めて感じた。」等の声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後もショウガの生産及び品質の安定に向け、部会への情報提供と指導を行っていきます。

ニラそぐり機導入農家に聞き取り調査を実施



11月29～30日、農業改良普及課はJA土佐香美と協力し、ニラのそぐり機導入農家5戸に対して稼働状況を調査しました。その結果、作業者の人数(1～3名)に応じて作業の分担を工夫していたり、花茎の発生程度によってそぐり機を利用するかどうか判断していること等、活用状況を知ることができました。いずれの農家も導入によって調整作業を省力化できており、「機械のないそぐり作業には戻れない」という声も聞かれました。

農業改良普及課は今後も調査を継続して事例を集めるとともに、そぐり機の効率的な利用方法を取りまとめた手引き書を作成し、出荷量増加や規模拡大を図っていきます。

三市合同新規就農者歓迎会を開催



11月30日、JA土佐香美本所において、南国市・香南市・香美市合同新規就農者歓迎会が開催され、新規就農者9名、指導農業士7名、関係機関約30名が参加しました。

農業改良普及課は、これまでの香南・香美二市に南国市を加えての開催や現地研修を企画するなど、支援しました。ニラ農家での現地研修後、指導農業士7名との意見交換を行いました。新規就農者からは法人化のメリットは？といった積極的な質問や、この会を縁につながりを持って行きたいという声が聞かれました。

農業改良普及課では、今後も担い手が交流し学び合い経営安定につながるよう支援していきます。

青ネギ地区別現地検討会を開催



JA土佐香美洋菜部会は12月3日から7日にかけて、管内5カ所で青ネギの研修会を開催し、延べ42名が参加しました。

JAが病虫害防除や栽培管理について説明し、農業改良普及課は前園芸年度に多く発生した葉色の色抜けによる市場事故対策として、ネギの肥料吸収特性や土作り対策について説明しました。また現地検討会では、優良農家の施肥管理や厳寒期の管理について活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後もJAや部会と連携し、市場事故対策や、若手生産者の経営安定に向け支援していきます。

南国市でピーマンの合同現地検討会を開催



12月14日、南国市でピーマンの3JA合同現地検討会を開催し、南国市の生産者9名、JA土佐香美の生産者4名が参加しました。

農業改良普及課からは、今後の活動内容、栽培管理及び生育調査の結果について説明しました。

生産者からは、「前作の仕立て方法よりも整枝・収穫作業がしやすい」、「来作は自分もこの仕立て方法に挑戦してみたい」といった意見がありました。

農業改良普及課では、3月にも3JA合同現地検討会を開催し、生産者の技術向上を図っていきます。

農業の基礎及び新技術・GAPについて学ぼう～はちきん農業大学地域講座～



11月26日、農業振興センターにて、土作りや環境制御技術などをテーマにした地域講座を開講しました。また、GAPの必要性と取り組みを推進しました。はちきん農業大学受講生など12名が参加しました。

参加者からは「土づくりは、農業をしていく上で大事な作業の一つであることが理解できた」、「環境制御技術の導入と収集した環境データを活用していくことの重要性が理解できた」など感想が寄せられました。

農業改良普及課は、今後も女性農業者の栽培技術や経営管理力の向上などに向けた支援を続けます。